

理事長挨拶

この度、2023 年の 9 月 から、一般社団法人日本宇宙生物科学会・第 19 期理事長を拝命いたしました高橋昭久と申します。大役を仰せつかり身の引き締まる思いです。これまでの 10 名の代表を筆頭に、役員・会員の皆様が育て上げた本学会の、「宇宙生物科学及びそれに関連する分野の学術研究を振興すると共に、会員相互及び国際的な連絡を図る」という目的に全力で取組んで参ります。個としては力量不足ですが、宇宙生物科学研究の魅力と醍醐味を多くの方々と共有するとともに、これまで培ったネットワークを最大限に活かすことで、様々な専門家をつなぎ合わせる「ハブ」として本領域の活性化に役立て、次世代を担う若手を含めて、会員の皆様に活躍できる場を提供できれば幸いです。さらに、長期的な視野で、人類の将来を支える宇宙生物科学の発展を図って参ります。会員の皆様には、どうか一層のご支援、ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

さて、学会設立から 36 年経過し、昭和、平成、令和と時代が移ろい、人類の宇宙進出も「夢」から「現」となりました。再び月へ、火星へ、その先へと、“人類の生存範囲の拡大”が実現する時代へと移行しつつあります。我が国としても、各府省連携して取り組む宇宙開発利用加速化戦略（スターダスト）プログラムが推進されています。また、2030 年までに運用延期された ISS、民間の地球低軌道ステーションや月周回ゲートウェイなども計画されており、宇宙での実験機会が益々増えることが期待できます。宇宙では、地上と異なる重力環境、宇宙放射線環境、閉鎖環境で非日常的な極限的ストレスに曝されます。地球上で誕生・進化、適応、繁栄してきた生物が、特殊な宇宙環境でどのように生きることができるのか？生命の起源は宇宙のどこから来たの？地球以外にも生命がいるの？実に、宇宙視点というダイナミックな別次元で物事を捉えると、知的好奇心が刺激され、次から次へと興味は尽きません。様々な困難と制限を知恵と工夫で克服し、何年も計画・準備した愛しい生物試料が宇宙を旅するというロマンは、何ものにもかえ難い科学者冥利に尽きます。地球規模の課題を解決する糸口も、宇宙を舞台に研究することで初めて見えてくるかも知れません。今こそ、会員皆様の英知の結集が必要です。さらに、新しい風を吹き込む新メンバーの加入もお待ちしております。

第 19 期 理事長 高橋昭久

（群馬大学重粒子線医学研究センター・教授）

